

新風会・公明
松山信裕
議員



○市制施行70周年について ○人生のエンディングについて

その他の質問
・公共交通について

- 議** 市制施行70周年を令和6年度に迎える。記念事業として、歴史、文化、風土など地域の特色を生かした事業や将来を担う子どもたちが、勝山の未来に夢が膨らむような市民提案型、庁内各課から提案募集など、まだ2年前だが、準備期間、予算を踏まえて取り組みを開始してほしい。
- 理** 市制施行70周年を迎えるにあたり、これまでの勝山市の歩みを振り返り、将来にかなげていけるような事業を計画したい。
- 令和5年夏の恐竜博物館のリニューアルや令和6年春の北陸新幹線福井駅開業、令和7年以降には平泉寺白山神社のご開帳、中部縦貫自動車道全線開通、統合中学校の開校、県立大学恐竜学部の開学など勝山市にとって重要で大きなプロジェクトが続く。
- 市制施行70周年事業をこれらの中核に据えて、市議会や区長会、若者、女性等から意見をいただき、70周年を全市民で祝福し、市民が改めてわがまちに対する誇りを高められる機会となるよう令和5年度の早い時期には準備に入りたい。
- 議** ①故人や遺族の状況に応じて必要な手続きを抽出し、申請書作成の補助、受付、関係する課への案内等を行うワンストップサービスを提供する窓口「おくやみコーナーの設置」と「おくやみコーナー設置自治体支援ナビ」を導入すべき。
- ②住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすことができよう、見守りや安否確認に加え、葬儀、納骨、家財処分、役所の手続き等を死後に代行する「エンディングサポート事業」の導入を提案したい。
- 理** ①死亡届の提出時以後の様々な手続きに必要な書類や返還物、業務の担当課や連絡先を記載した一覧表と申請書等を合わせた「おくやみセット」を遺族に渡し、その一覧表に沿って各種手続きを進めていただいている。
- おくやみコーナー等の先行事例を研究しつつ、現在のおくやみセットを充実させ、遺族へのさらなる支援策を実施していく。
- ②まずは終活に関する市民の意識を高めることに取り組んでいきたい。

新風会・公明
下牧一郎
議員



○感染症対策について ○児童虐待について

- 議** 文科省は、今冬に新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行する可能性が「極めて高い」とした報告書を出して警鐘を鳴らしている。
- 感染症対策として教室等の換気が必要とされているが、十分な換気ができているかを把握する方法として、「学校等における感染症対策等支援事業」等で補助対象となつている二酸化炭素濃度測定器の導入が推奨されているが、当市の導入見解を問う。
- 理** 市内の各小中学校では、二酸化炭素濃度測定器の普通教室などへの設置が進んでおり、二酸化炭素濃度が1500 ppm以下となるように換気を行っている。
- ある学校では、生徒が委員会活動として、休み時間などに二酸化炭素濃度測定器の数値をチェックし、必要があれば換気を行う活動を始めようとしており、生徒らの新型コロナウイルス感染症に対する危機管理意識の向上にも繋がっている。
- 議** 厚生労働省の令和2年度「児童相談所における児童虐待件数」によれば、児童相談所の相談件数の中でも虐待件数が急増している。
- 被虐待児は、乳幼児だけでなく学齢期の児童の増加も目立つ。児童をどのように虐待から守ることができるか、その対応が急がれる。
- 近年、スクールソーシャルワーカーが小中学校を中心に配置され、児童の支援にあたっているが、当市の活動内容と児童虐待の実態を問う。
- 理** 市では、県のスクールソーシャルワーカーが1名配置され、学校だけでは対応が困難な場合、家庭訪問をして本人や家族と面談を行ったり、福祉・医療などの橋渡し役として連携や調整を行ったりしている。
- 児童虐待の実態としては、虐待に関する相談件数は、令和3年度は0件、令和4年11月末現在でも0件である。
- 全国的には児童虐待の件数は増えており、市民の関心が増し、通報を含む様々な相談が寄せられている。これまでも、疑わしきは虐待案件と捉え、大事な事案に至らないように対応をしている。今後とも関係機関と連携し、児童虐待防止に努めていく。